2022年度
企業リスクマネジメント研究会活動報告

2023年4月12日

部会長　伊藤　吾朗（鹿島建設株式会社）

アジェンダ

1. 企業リスクマネジメント研究会の歴史と概要
2. 2022年度活動報告
    - 活動概要
    - 全体会の活動報告
    - 分科会の活動報告
        - 議論したテーマ
3. まとめ

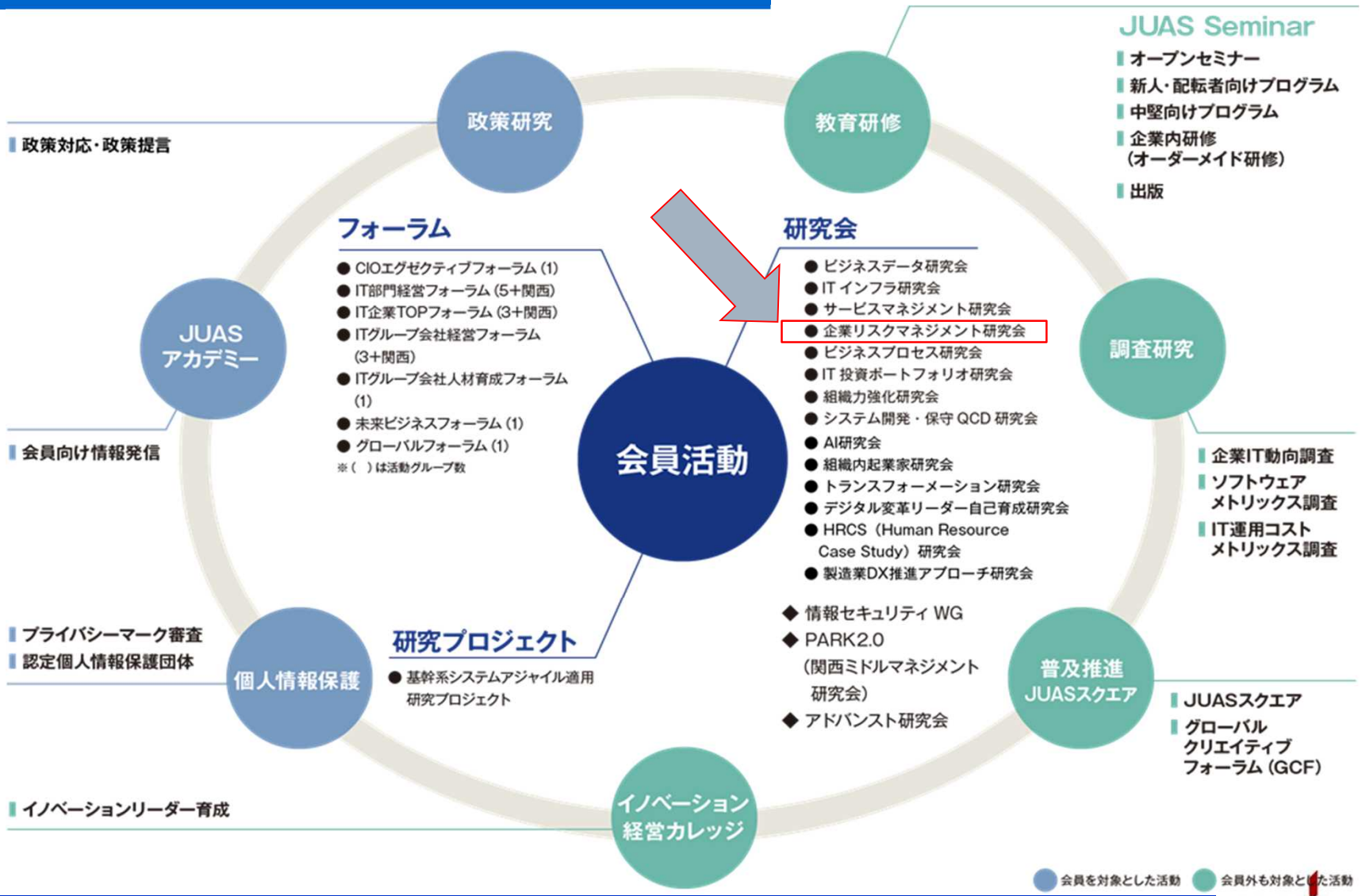
企業リスクマネジメント研究会の歴史と概要

1．企業リスクマネジメント研究会の歴史と概要

- 企業リスクマネジメント研究会とは

JUAS活動（2022年版より）

業種・業態の垣根を越えた会員活動



企業リスクマネジメント研究会の歴史

企業情報マネジメント研究会

企業リスクマネジメント研究会

2006年度
～
2010年度
2011年度

情報セキュリティ研究会

2012年度

企業リスクマネジメント研究会

2013年度
～
2022年度

日本版SOX法への対応を中心とした参加企業相互による情報交換

● リスクマネジメントの研究
- 情報管理
- 法務
- BCP

● 震災後のリスクマネジメントの研究
- 情報管理
- BCP1
- BCP2

●サイバー関連
- BCP

コロナ禍を乗り越え、無事、17年目を完了させることが出来ました

●企業リスクマネジメントの研究

2013年度
- 情報セキュリティ
- 個人情報、スマホ
- BCP

2014年度～2022年
- 情報セキュリティ（サイバーセキュリティ）
- 情報セキュリティ（CSIRT/ガバナンス）
- BCP

企業リスクマネジメント研究会の概要（募集要綱）

【研究会概要・方針】

研究会では、企業におけるリスクマネジメントについて有識者や参加企業の取り組みを基に、自社への適用や提言、企業の枠を超えた取組みの可能性について研究・情報交換をします。

本研究会は、若手の方や女性の活躍を応援します。

【研究テーマ案】

サイバーセキュリティ、情報セキュリティマネジメント

※BCP（震災対策・感染症対策）に関しても議論します

【対象者】

初心者・経験者・年齢・性別・職種を問わず

情報セキュリティ/リスクマネジメントについて関心が高い方

関連情報の収集や社外人脈を広げたいとお考えの方

リスクマメジメントの研究方法

方法１：リアルなリスクの共有

- 実際に発生したリスク、実施した対策を共有する。
- 今直面している問題、検討している対処方法を共有する。

方法２：実施した対策に関する検証（ディスカッション）

- もっと良い対処方法はあるのだろうか？
- こんな対応はどうでしょうか？
- このような対応をしたことがあります・・

方法３：有識者による講演（＋情報交換会）

- 有識者の知見の共有
- 様々な経験を持つメンバーの知見の共有

コロナ禍により
情報交換会が実施で
きず、細かいフォロー
ができない状態。
メール、Web会議は
活発になったが、
ラスト１マイルが・・・

情報共有のための「研究会の重要なルール」

“ Chatham House Rule ”ってご存知ですか？

"When a meeting, or part thereof, is held under the Chatham House Rule, participants are free to use the information received, but neither the identity nor the affiliation of the speaker (s) , nor that of any other participant, may be revealed".

王立国際問題研究所（イギリス）に源を発する、会議参加者の行為規範

当該会議で得られた情報を利用できるが、その情報の発言者やその他の参加者の身元および所属に関して秘匿する（明示的にも黙示的にも明かにしない）義務を負うというルール。（出典 ： Wikipedia）

★研究会メンバーは、「チャタムハウスルール＝鉄の掟」を遵守して、円滑なコミュニケーションを実施しています。

Chatham House Rule for Web会議

Web会議でもチャタムハウスルールを守って活動

- 会社では会議室にて参加
- 自宅でも、できるだけ個室での参加
- カメラはオン（バーチャル背景はOK・・・）
- 会社名＋フルネームを表示（JUASルール）
- イヤホンマイクを利用（スピーカー厳禁）
- 録音・撮影・スクショ禁止

★会議で得られた情報は利用できますが、
情報の発言者やその他の参加者の身元および所属に関しては秘匿する

1．企業リスクマネジメント研究会の歴史と概要

- **企業リスクマネジメント研究会とは**

  参加したメンバーが、

  今直面しているリアルなリスクについて、

  さまざまな視点でディスカッションしていきます。

  幅広い視点（業種、業務、世代など）で

  自由に意見交換できるコミュニティです。

2022年度　活動報告

2022年度　活動報告

- **活動概要**
- 全体会の活動報告
- 分科会の活動報告
  - 議論したテーマ

2022年度　活動概要

- **再形成フェーズの活動**

コロナ対策、テレワークの常態化、Web会議の習熟、

＋対面会議のコミュニケーションも増やしたい。

＝＞

各社のコロナ対策に従い＋感染症対策を実施して、

可能な範囲で

対面の会議やハイブリッド会議（対面＋Web会議）を

実施しました。

2022年度　活動概要

全体会：　専門講師の講演＋各分科会の発表＋情報交換会（一部実施）

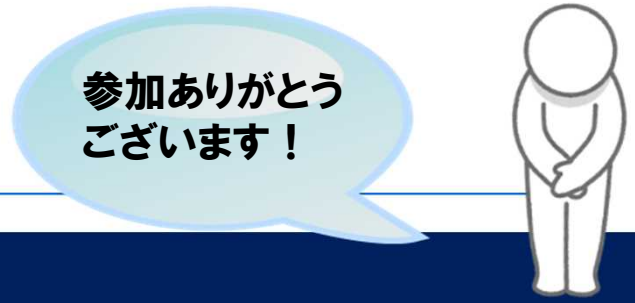
- 全体会はハイブリッド形式（現地＋オンライン）で実施
- 全体会開催日に分科会も実施＋分科会活動の概要共有
- 情報交換会はベストエフォート開催

分科会：　10－15名でディスカッション（月１回程度）

- 分科会の人数は、10数名（オンラインとしては若干多め）
  いろいろな事例・経験談を得るため。
- オンラインでもチャタムハウスルールを堅持
- 他の分科会への参加可能!!

~~合宿~~・現地見学会・会社訪問：　3月に現地見学会実施!!

2022年度の参加企業



42社に参加していただきました。

企業名	企業名	企業名
三井不動産株式会社	丸文株式会社	IIMヒューマン・ソリューション株式会社
日本生活協同組合連合会	読売新聞東京本社	ファイルフォース株式会社
日商エレクトロニクス株式会社	株式会社プライド	第一三共株式会社
鹿島建設株式会社	株式会社テプコシステムズ	日本電気株式会社
株式会社かんぽ生命保険	株式会社大同ITソリューションズ	MS&ADシステムズ
株式会社IHI	インテル株式会社	パーソルキャリア株式会社
アイエックス・ナレッジ株式会社	日揮グローバル株式会社	コニカミノルタ情報システム株式会社
NOK株式会社	ニッセイ情報テクノロジー株式会社	SOMPOひまわり生命保険株式会社
株式会社ローソン	独立行政法人住宅金融支援機構	日本水産株式会社
東日本旅客鉄道株式会社	日本ハム株式会社	パナソニックコネクト株式会社
日揮ホールディングス株式会社	システムズ・デザイン株式会社	コニカミノルタ株式会社
東邦ガス株式会社	JFEシステムズ株式会社	ヤマハ発動機株式会社
株式会社中電シーティーアイ	第一生命情報システム	株式会社　JALインフォテック
パーソルホールディングス株式会社	セキュアワークス株式会社	ENEOS株式会社

ようこそ “企業リスクマネジメント研究会” へ

42名の皆様にご参加いただきました。

例年より
新規の方が多い。

ステータス	人　数
新規	22名
継続・復帰	20名

【参考】 世界の経営者が考えるビジネスリスク

～ 「Risk Barometer 2022」(Allianz社)より ～

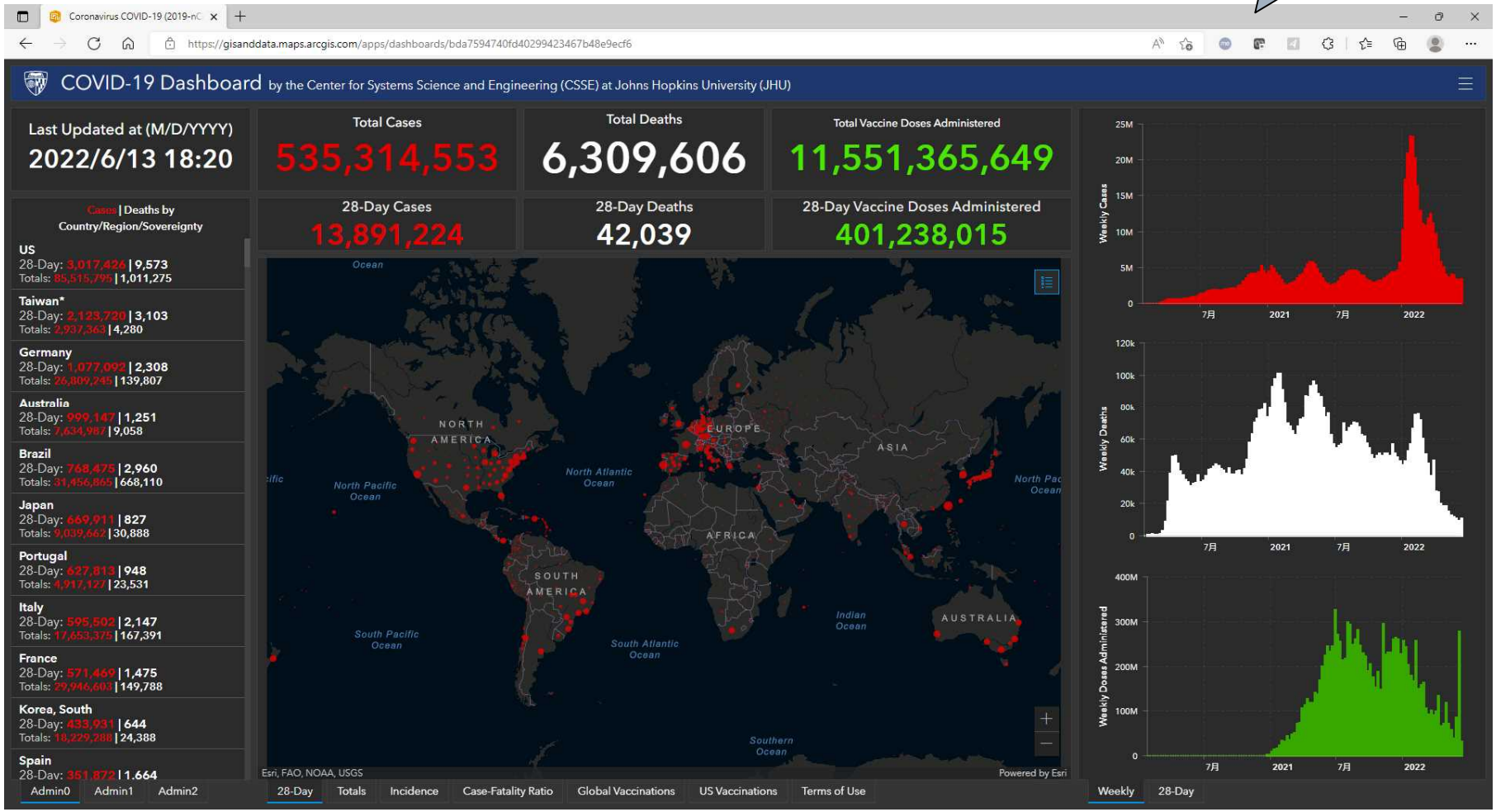
順		
1	サイバーインシデント	データ漏洩、データ破壊
2	事業中断	サプライチェーン、ディストリビューション
3	自然災害	台風・津波・地震(損失額が巨大)
4	コロナの世界的拡大	感染症リスク
5	法律・規制の変更	米中摩擦、EU関連
6	気候変動	災害リスク
7	火災・爆発	工場・倉庫火災
8	市場変革	新規参入・企業買収
9	熟練労働力不足	
10	マクロ経済の動向	世界的な景気後退リスク

出典 ： https://www.agcs.allianz.com/news-and-insights/reports/allianz-risk-barometer.html#top10

【感染症】研究会第１回実施日の頃の状況

終息しそうな雰囲気もありましたが・・

～ 新型コロナウイルス(2019-NCOV)症例状況 ～

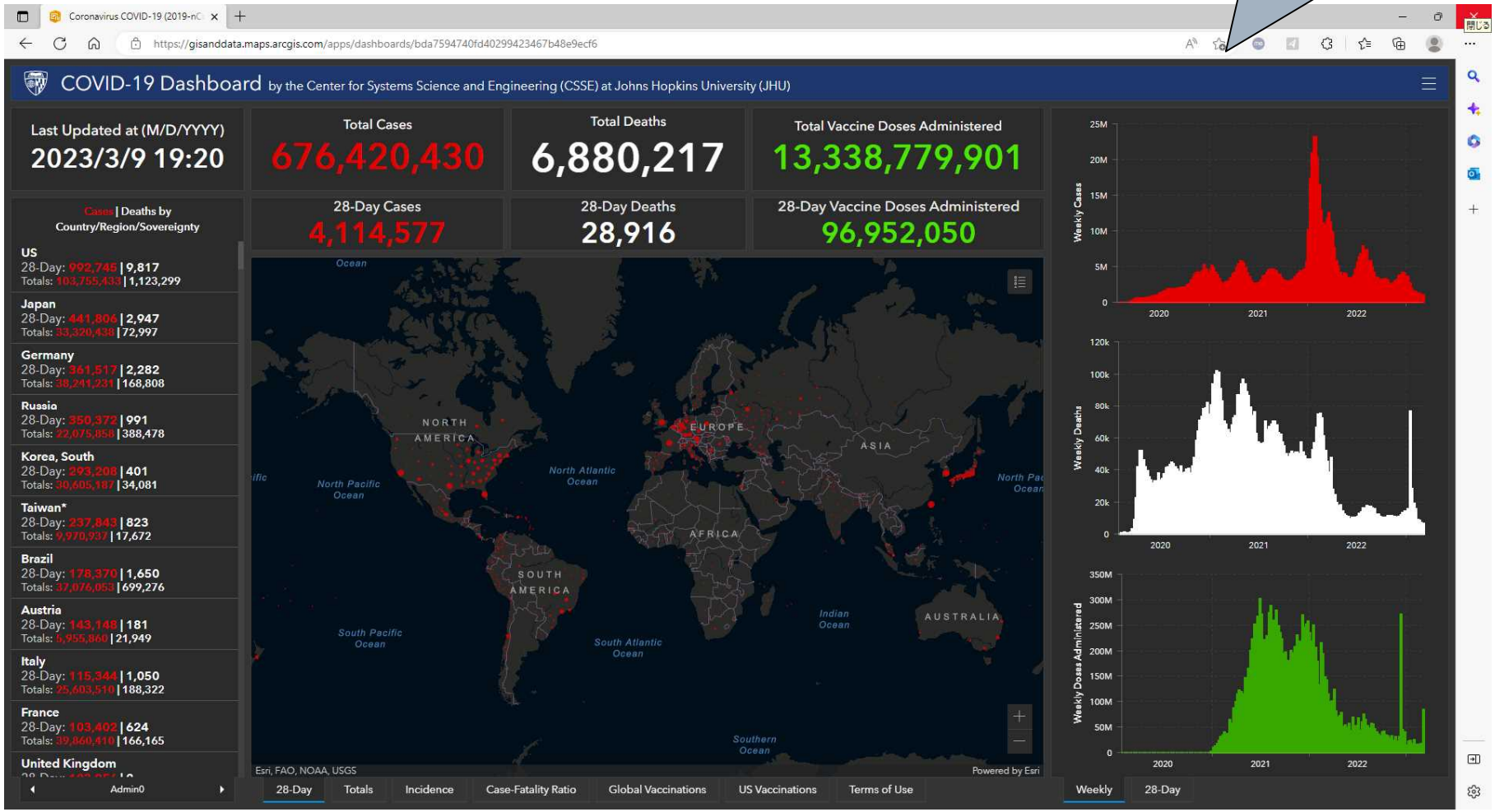


出典 ： ジョンズ・ホプキンス大学システム科学工学センター

【感染症】研究会最終回実施日の頃の状況

～ 新型コロナウイルス(2019-NCOV)症例状況 ～

5類になりますが・・・
リスクは残る・・・



出典 ： ジョンズ・ホプキンス大学システム科学工学センター

【参考】 情報セキュリティ10大脅威 2022

～ IPA 情報処理推進機構 より ～

昨年	個人	順位	組織	昨年
2位	フィッシングによる個人情報等の詐取	1位	ランサムウェアによる被害	1位
3位	ネット上の誹謗・中傷・デマ	2位	標的型攻撃による機密情報の窃取	2位
4位	メールやSMS等を使った脅迫・詐欺の手口による金銭要求	3位	サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃	4位
5位	クレジットカード情報の不正利用	4位	テレワーク等のニューノーマルな働き方を狙った攻撃	3位
1位	スマホ決済の不正利用	5位	内部不正による情報漏えい	6位
8位	偽警告によるインターネット詐欺	6位	脆弱性対策情報の公開に伴う悪用増加	10
9位	不正アプリによるスマートフォン利用者への被害	7位	修正プログラムの公開前を狙う攻撃（ゼロデイ攻撃）	NEW
7位	インターネット上のサービスからの個人情報の窃取	8位	ビジネスメール詐欺による金銭被害	5位
6位	インターネットバンキングの不正利用	9位	予期せぬIT基盤の障害に伴う業務停止	7位
10	インターネット上のサービスへの不正ログイン	10	不注意による情報漏えい等の被害	9位

2022年度　活動報告

- 活動概要
- **全体会の活動報告**
- 分科会の活動報告
  - 議論したテーマ

幹事団の紹介

2022年度の幹事団です

【全体会】

・部会長　　伊藤　吾朗（鹿島建設株式会社）
・副部会長　　糀原　晃紀（インテル株式会社）
・FLM　　坂　靖史（株式会社JALインフォテック）

【分科会】

・分科会A　分科会長　：　本池　様（日本生活協同組合連合会）
　　副分科会長：　奥村　様（株式会社IHI）
・分科会B　分科会長　：　石原　様（JFEシステムズ株式会社）
　　副分科会長：　櫻井　様（日揮グローバル株式会社）
・分科会J　分科会長　：　坂　様　（株式会社JALインフォテック）
　　副分科会長：　佐々木　様（ファイルフォース株式会社）

2022年度研究会：活動スケジュール

研究会	日程		時間	場所	メインテーマ	
第1回	6月16日	木	15:30～17:30	会場 Zoom	研究会方針・自己紹介	
第2回	8月10日	水	15:30～17:30	会場 Zoom	・ゲスト講演（JPCERT/CC　佐條様） ・各分科会報告	テーマ決定
第3回	9月30日	金	15:30～17:30	会場 Zoom	・ゲスト講演（サイバー研究所　石橋様） ・分科会事例発表（分科会A） ・分科会活動内容紹介	分科会
第4回	11月16日	水	15:30～17:30	会場 Zoom	・ゲスト講演（ANAシステムズ　阿部様） ・分科会事例発表（分科会B） ・分科会活動内容紹介	分科会
第5回	1月20日	金	15:30～17:30	会場 Zoom	・ゲスト講演（パーソルキャリア 山崎様） ・分科会活動内容紹介（A/B/J）	分科会
第6回	3月10日	金	15:30～17:30	会場 Zoom	・活動の振返り ・分科会活動まとめ報告（A/B/J）	分科会
Jフェス	4月12日～14日				研究会成果報告	計8回の分科会

分科会
分科会
分科会

2022年度研究会：講演会4テーマ と 事例発表2件

	日時	テーマ
第2回	8月10日（水）	• JPCERT/CC 佐條様 「最近のサイバー攻撃とインシデント対応」
第3回	9月30日（金）	• サイバー研究所 石橋様 「ニューノーマルに向けたセキュリティ/リスク管理」 • （事例発表）日本生活協同組合連合会 本池様 「クラウドサービスの評価」
第4回	11月16日（水）	• ANAシステムズ 阿部様 「徳島県つるぎ町立半田病院セキュリティインシデントレポートを参考とした中小規模事業会社におけるセキュリティ対応」 • （事例発表）セキュアワークス 谷様 「脆弱性管理における実情、課題、解決策」
第5回	1月20日（金）	• パーソルキャリア 山崎様 「インターネット広告による個人情報追跡の仕組み，米国プライバシー保護法案」

最近のサイバー攻撃とインシデント対応

JPCERT/CC　佐條様

◆最近のインシデント事案

Emotetと侵入型ランサムウェアの攻撃手法の解説
復旧の長期化や被害額の増加（事業継続リスク）

◆侵入型ランサムウェアへの対応

短時間での対応が必要であるが、侵入原因の特定が困難
一般的な不正アクセスとは異なる原因調査アプローチが必要
専門家の知見（他の攻撃事例からの情報）が重要
被害の最小化が重要（バックアップの保護、侵入経路を推定した対処など）

◆サイバー攻撃（特に侵入型ランサムウェア）への対策

「基本対策」の徹底
リモートアクセス対策の徹底（VPNやRDPの見直し）
脆弱席対策
データ（及びシステム）のバックアップ対策

ニューノーマルに向けたセキュリティ/リスク管理

サイバー研究所　石橋様

◆情報システム部門の本年度の課題は？

コロナが終息に向かい、あらたなビジネスの確立
DXの推進（ITだけでなくビジネス視点が要求される）

◆DX推進

DX要員とIT要員は別？
独立したDX推進部署の増加

◆データの活用

データの活用が重要
コンサルファームの活用は有効
関連するセキュリティリスク:
　クラウド活用、エンドポイント保護（SOCの活用）、特権ID管理

中小規模事業会社におけるセキュリティ対応

ANAシステムズ　阿部様

◆半田病院の事例研究（有識者会議調査報告書）

原因：VPN装置の脆弱性が放置されていた。
　　VPN接続時のパスワードが脆弱であった。
　　ウイルス対策ソフトを稼働させていなかった。
　　サーバのファイアウォール機能を利用していなかった。
初動：原因究明、復旧の知見が無い業者による対応

◆中小規模会社におけるセキュリティ対応

予算の確保と人材の確保の検討
ベンダーのセキュリティに関する能力
BCP対策の拡充（サイバーインシデントも視野にいれる）
システムの保守契約と責任区分
善管注意義務を実施できる業者の選定
外部サービスの活用（サイバーセキュリティお助け隊サービス）

米国プライバシー保護法案

パーソルキャリア　山崎様

◆Withコロナでのリモートワークについての調査

社給パソコンを持ち帰って社内へVPN接続するパターンと
仮想デスクトップ接続をするパターンが主流
テレワークの定着化傾向が見える
サテライトオフィスの利用率は低い
コミュニケーションロスが課題

◆米国プライバシー保護法案

連邦レベルでの初の包括的な個人情報保護法案
カルフォルニア州法への影響
「センシティブ対象データ」の定義と保護強化
　メールアドレスが含まれる。
GDPR以上に厳しい個人情報保護となる
米国居住者の対象データの管理・運用に影響あり

事例紹介（２テーマ）

◆クラウドサービスの評価（日本生活協同組合連合会　本池様）

チェックシートの課題（回答時間、ISMS認証はあるが・・）
取り扱う情報（秘匿性、個人情報有無など）によるリスク評価
許可判断と「×」の項目について・・・総合判断となる
点検への取り組み（アカウント管理、アクセス制限など）

◆脆弱性管理における実情、課題、解決策（セキュアワークス　谷様）

攻撃に利用される脆弱性
日々発見される脆弱性、優先順位の判断が難しい
脆弱性診断は実施しても、対応に時間がかかる
すべての資産の脆弱性を点検できているか？
資産の特定＝＞脆弱性診断＝＞優先順位付け＝＞計画的対応
※自動化の仕組みがカギとなる

「分科会」の活動報告

分科会活動

分科会グループに分かれてディスカッション

【グループ】

どのような脅威への対策に興味があるか？
研究会で取り上げたいテーマは何か？などをアンケートで集計して
悩み・課題が似ているメンバーを同じ分科会へ

・分科会A （サイバーセキュリティ：技術系悩み多め）
・分科会B （セキュリティ＆BCP：事業継続、ITガバナンスなど）
・分科会J （情報セキュリティ：マネジメント系悩み多め）

分科会活動

分科会グループに分かれてディスカッション

【ディスカッション方法】

- 全体会開催日及び、全体会の開催の無い月に分科会を開催
  （計7-8回）を開催
- 毎回１－２名がテーマ担当。
  担当者は、自己紹介と事例紹介、悩み相談。
- １時間で1テーマ完結。
  深堀りする場合は、別途開催。宿題は無し。
  万が一欠席した場合でも次回参加しやすくするため。
- 全員でディスカッション（誰かの発言を否定しない。自由な発言）
  チャタムハウスルールを守る
- 10、12、2月の分科会は、他の分科会へも参加可能!!

2022年度　分科会
議論したテーマ

分科会A

参加企業

・分科会A　14名

分科会リーダ：
　本池　様（日本生活協同組合連合会）

分科会サブリーダ：
　奥村　様（株式会社IHI）

分科会A
三井不動産株式会社
日本生活協同組合連合会
日商エレクトロニクス株式会社
鹿島建設株式会社
株式会社かんぽ生命保険
株式会社IHI
アイエックス・ナレッジ株式会社
NOK株式会社
株式会社ローソン
東日本旅客鉄道株式会社
日揮ホールディングス株式会社
東邦ガス株式会社
株式会社中電シーティーアイ
パーソルホールディングス株式会社

2022年度分科会A 主な研究テーマ

①EDR導入の進め方、運用について
②Microsoft社セキュリティ製品の評価
③メールに関するセキュリティ対策
④公開サーバの脆弱性管理
⑤セキュリティインシデント事例
⑥IOT利用時のセキュリティインシデント事例
⑦シャドーIT対策
⑧脅威インテリジェンス活用について
⑨ゼロトラスト検討・構築事例について
⑩CSIRT活動について
⑪リスクマネジメントについて

分科会B

参加企業

・分科会B　14名

分科会リーダ
石原　様（JFEシステムズ株式会社）

分科会サブリーダ
櫻井　様（日揮グローバル株式会社）

分科会B
丸文株式会社
読売新聞東京本社
株式会社プライド
株式会社テプコシステムズ
株式会社大同ITソリューションズ
インテル株式会社
日揮グローバル株式会社
ニッセイ情報テクノロジー株式会社
独立行政法人住宅金融支援機構
日本ハム株式会社
システムズ・デザイン株式会社
JFEシステムズ株式会社
第一生命情報システム
セキュアワークス株式会社

2022年度分科会B 主な研究テーマ

①内部不正対策
②セキュリティモニタリング
③オンラインストレージの導入
④テレワーク環境のセキュリティ対策
⑤セキュリティインシデント事例
⑥災害対策BCP
⑦大規模開発プロジェクトでの災害リスク対応
⑧サプライチェーンリスク管理
⑨グループ会社への情報セキュリティガバナンス
⑩海外グループ会社へのITガバナンス

分科会J

参加企業

・分科会J　１４名

分科会リーダ
坂　様　　（株式会社JALインフォテック）

分科会サブリーダ
佐々木　様（ファイルフォース株式会社）

分科会J
IIMヒューマン・ソリューション株式会社
ファイルフォース株式会社
第一三共株式会社
日本電気株式会社
MS&ADシステムズ
パーソルキャリア株式会社
コニカミノルタ情報システム株式会社
SOMPOひまわり生命保険株式会社
日本水産株式会社
パナソニックコネクト株式会社
コニカミノルタ株式会社
ヤマハ発動機株式会社
株式会社　JALインフォテック
ENEOS株式会社

2022年度分科会J 主な研究テーマ

①インターネット広告による個人情報追跡の仕組み
②個人情報保護管理システム
③米国プライバシー保護法案
④認証について
⑤クラウドサービスのセキュリティ審査について
⑥サプライチェーンのセキュリティ管理
⑦グループ会社のセキュリティリスク評価
⑧標的型攻撃メール訓練
⑨社内セキュリティ教育の取り組み
⑩ISMS活動について
⑪新型コロナ対策

2022年度　分科会
研究概要

分科会 研究概要

各分科会で議論した内容の一部を紹介いたします。

概要掲載テーマ
・EDRの運用について
・メールに関するセキュリティ対策
・ゼロトラスト環境の構築
・内部不正対策
・サプライチェーンリスク管理
・グループ会社へのセキュリティガバナンス
・クラウドサービスのセキュリティ審査
・CSIRT活動/インシデント対応について

EDRの運用について

SOCが重要

◆セキュリティ担当者による遠隔地パソコンへの対応

アラートが発生したパソコンに対して、遠隔地からネットワーク隔離や調査が可能
社外へ持ち出したパソコンやテレワーク環境にも対応可能

◆SOC運用（24／365）

大量に検知されるアラートへの遅滞ない一次切り分けが可能
　漏れない検知のためには、過検知は一定数発生する
夜間・休日に発生したアラートへも日中同様に対応可能
国内のベンダーの場合、追加サービスも豊富
　ホワイトリスト運用やポリシー管理の対応なども可能

◆隔離対応時の連絡

金曜日の夜にネットワーク隔離したが、利用者が休日に出勤した場合に
状況を連絡する必要がある。
画面へのメッセージ表示の仕組みの準備が必要

メールに関するセキュリティ対策

基本対策＋ラスト1マイルの対応は？

◆送信ドメイン認証

SPF/DKIM/DMARCの適用

SPF（自社のメール送信サーバの管理）

DKIM（メーリングリストは？）

DMARC（Report機能の活用）

◆迷惑メール防止機能、ウイルス対策、サンドボックス機能など

様々な対策はあるが、100%ブロックはできない。

フィッシングメールは防ぎにくい。

◆通報機能

不審なメールは、セキュリティ部門へ通報

◆アイソレーション

仮想環境で実行して、クライアントへダウンロードしない

ゼロトラスト環境の構築

セキュリティの再整理が必要

◆ゼロトラストの具体化
ゼロトラストといっても、各企業により実装の内容は異なる。
ローカルブレイクアウトの導入のみの場合など、境界防御なども必要
必要なセキュリティ対策を明確にする

◆ファイルサーバの廃止は現実的か？
現時点では、オンラインストレージは暗号化被害が少ない

◆アクセスコントロール
クラウドサービス毎の利用者管理を実施する場合のポイントと課題
位置の違いでアクセスコントロールすることは運用できるのか？
災害時や障害時のBCP対応に関する検討

◆データへのラベル管理
重要情報を明確にする必要がある

内部不正対策

コンプライアンス強化はされているが減らない内部不正

◆事例からの原因分析

従来からの分析のとおり、動機＋機会＋正当化
退職・転職時だけでなく、継続的な内部不正も発生している
　転職（人材の流動化）、派遣・請負の社外の方も頻繁に交替
メールだけでなく、クラウドサービスを利用したデータ持出も発生している

◆発生防止への取り組み

「ログの監視」「ログ監視していることを周知」「教育」「誓約書」で抑止する
　ログからのアラート
　　印刷、送信先メールアドレス（企業メール以外）

◆テレワークによるモラル低下

周りから見られていないため、公私混同の傾向も増加
内部不正「機会」の増加もあるが、意図せぬ情報漏洩のリスクも発生している

サプライチェーンリスク管理

増加するリスクではあるが、効果的対策が難しい

◆事業継続への影響大

物・サービスの流れと情報の流れがある
サイバー攻撃による業務停止がビジネス運営に影響を与えている

◆関与する企業について

グループ企業と委託先企業
　グループ会社は、ガバナンスを効かせやすいが
国内企業と国外企業
　海外の会社に対する対応（企業文化、契約）

◆情報に関するサプライチェーンリスク

委託先へ提供した情報（データ）がサイバー攻撃により漏洩・・・
「点検」＝＞「課題の是正」
　　点検の精度（ヒアリング、検証結果要請）
情報共有基盤（オンラインストレージ）を活用して、ダウンロードを制御

グループ会社へのセキュリティガバナンス

インフラの共有状況によって対応も異なる

◆グループ会社のセキュリティリスク評価・点検

チェックシート、ペネトレーションテスト結果、攻撃メール訓練結果など利用
セキュリティ評価サービスの活用
　セキュリティ対策の成熟度評価（チェックシート）
　インターネット上からのチェック（外部からのリスク判断）
　アタックサーフェースマネジメント（脅威情報活用）
企業買収時のセキュリティチェックが重要

◆インフラを共用するメリット

ネットワーク、パソコン、スマートデバイスの共通化
セキュリティ対策の共通化＋本社でのアラート監視
　調達、サポートなども一元化
小規模のグループ会社の場合、費用負担がネックになる場合がある

クラウドサービスのセキュリティ審査

リスクの啓蒙と点検へのシフト

◆セキュリティチェックの標準化

クラウドサービスの審査項目はほぼ標準化されてきた
業務の重要性、保存するデータの秘匿性がカギとなる
クラウドサービスの評価を代行するサービスもあり

◆課題

IT担当がいない部署でのクラウドサービス契約の増加
クラウドサービス利用時のリスクの浸透度合いが不明
　管理者アカウントの保護、利用者アカウント管理
　アクセス制限（SAML連携、IPアドレス制限など）
　クラウド間のAPI連携　など
利用後の点検が重要（担当者変更も多い）
利用終了時のデータの取扱い

CSIRT活動/インシデント対応について

攻撃の高度化への対応

◆インシデント対応からの改善

不正アクセスリスク低減には、認証の強化が必須
　２要素認証も破られる・・・認証の重要性、リスクの啓蒙が必要
メール対策
　継続した啓蒙は必要、ポスターも効果あり
　通報制度の一般化
資産管理
　野良クラウドサーバ、AppleWatchなどなど

◆CSIRT活動

ＳＯＣの活用
ＳＩＥＭの活用・検討・・・マネージドサービスの活用
サイバーセキュリティ保険の検討・活用
経営者向けのサイバーセキュリティ教育

2022年度
現地視察

阿久根市　再生可能エネルギー＆レジリエンス強化

エネルギーの地産地消

今年度の現地見学テーマは
・何かと話題にこと欠かさないエネルギー・電力の中でのカーボンニュートラル
・地域内再生可能エネルギー活用モデル
・災害対策（大規模停電時の電力確保による防災力向上）

今年度の現地研究会先：鹿児島県阿久根市
『地域内再生可能エネルギー活用モデル構築事業』

2023年3月3日（金）
見学実施予定

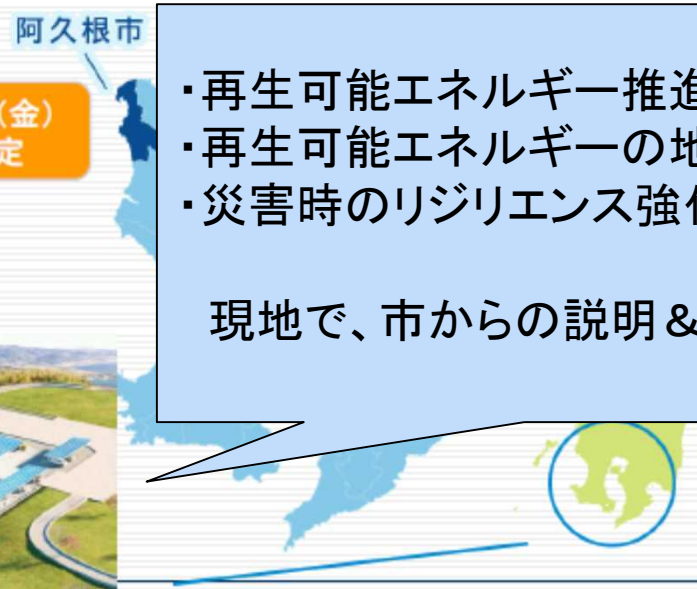
阿久根市　再生可能エネルギー＆レジリエンス強化

エネルギーの地産地消

今年度の現地見学テーマは
・何かと話題にこと欠かさないエネルギー・電力の中でのカーボンニュートラル
・地域内再生可能エネルギー活用モデル
・災害対策（大規模停電時の電力確保による防災力向上）

今年度の現地研究会先：鹿児島県阿久根市
『地域内再生可能エネルギー活用モデル構築事業』

2023年3月3日（金）
見学実施予定



・再生可能エネルギー推進
・再生可能エネルギーの地産地消
・災害時のリジリエンス強化（電源供給）

現地で、市からの説明＆施設見学!!

まとめ

2022年度出席率

	出席者総数
第1回	38名
第2回	37名
第3回	31名
第4回	35名
第5回	41名
第6回	34名

◆出席率

平均　36名　（86%）

分科会は、複数参加の方も！

出席ありがとうございます！

2022年度活動の振り返り（メンバーの意見）

- 全体的に「満足」（83%）の評価をいただきました。
- 回数は限られたが、対面の議論ができて良かった。
- 実際の事例、対策が共有できて効果的であった。想定以上の情報を得られた。
- 様々な業種、様々な年代の方との交流ができて良かった。
- 初参加でしたが、情報交換がスムーズにできた。
- 宿題がなかった（ノルマ・負担が少なくて良かった）

- 最初に合宿などがあるともっと議論が活性化したかと思う
- ハイブリッド開催の場合、オンライン参加側は発言が控えめになってしまう
- オンラインでは、会話への割り込みがしにくい
- 他の分科会へもっと参加したかった

2022年度活動の振り返り（運営サイド・幹事団）

・**分科会運営**

＝＞ 他の分科会への参加が効果的だった。

分科会の日程調整を早め、現状より、他分科会へ参加しやすくします。

・**対面での交流**

＝＞ 次年度は、原則対面開催とします（情勢によりオンライン開催あり）

次年度は、JUAS方針により、合宿復活予定です!!

・**コミュニケーションの強化**

＝＞ SmoothFile / メーリングリスト の活用強化

チャタムハウスルールを守った上で、資料の共有も積極的に進めます

他社はどうしているか？について、アンケートを定例化してデータ共有します。

2022年度企業リスクマネジメント研究会、無事完了

- 参加頂いた研究会メンバー皆さん
- 分科会をリードしていただいた幹事団の皆さん
- Zoom操作やオンライン運営の勘所を指導していただき、
  運営を支援いただいたJUASのスタッフの皆さま！

１年間ありがとうございました！

それから・・・
私たちに研究会への参加の機会を与えていただきました
メンバー企業のマネージャの皆様、ありがとうございました

これからも当研究会をよろしくお願いします

2023年もよろしくお願いします！

以上